

普及項目	養殖・流通
漁業種類等	養殖業
対象魚類	マガキ
対象海域	八代海

マガキ天然採苗技術開発及び養殖技術開発試験

県南広域本部水産課・吉川 真季

【背景・目的・目標（指標）】

八代海では、新たな漁業としてマガキ養殖が開始されたが、養殖に使用する種苗は県外産に依存しており、生産コストが増大している原因となっている。そこで、生産コストの軽減や安定的な種苗の確保を目的として、八代市鏡町及び水俣市における地元産種苗の採苗技術や短期養殖技術の開発を行った。なお、今年度は、水俣市では天然採苗の可否の確認、鏡町地先では技術指導により年度末に販売サイズまで成長させることを目標とした。

【普及の内容・特徴】

（1）マガキ天然採苗技術開発試験（水俣市）

水俣市漁協の協力のもと、水産課が水俣市の湯堂港、袋湾口、湾奥、丸島新港、湯の児の5カ所で採苗試験を実施した（図1）。採苗基質はシングルシード作出用のプラスチック製基質を用い、令和2年（2020年）7月29日にこれらを垂下、10月13日に試験を終了した。

（2）養殖技術開発試験（八代市鏡町）

鏡町漁協と生産者は、大鞆漁港で採苗した種苗を8月31日から抑制棚及びイカダにおいて、バスケットカゴとあんどんカゴを用いて養殖試験を開始した。水産課は、養殖試験の現地指導に加え、令和2年（2020年）11月から令和3年（2021年）3月まで月1回のサンプリングを行い、殻高や重量等を計測した。なお、今年度は生産性向上のため、令和2年（2020年）12月と令和3年（2021年）2月にパンチングメタルを用いてサイズ選別を行なった。

【成果・活用】

（1）マガキ天然採苗技術開発試験（水俣市）

湯堂港及び丸島新港の護岸に垂下した基質には種苗が付着し貝の成長が見られたが、それ以外の場所での貝の着底は見られなかった（図2）。この原因として、マガキ以外の付着物による着底の阻害によるものと考えられた。

（2）養殖技術開発試験（八代市鏡町）

令和2年（2020年）12月と（2021年）2月にふるいによる選別を行なったところ、ふるいでの選別が可能であると分かった（図3）。また、漁業者からは、作業は思ったより簡単との声が聞かれ、現場への導入が可能と考えられた。なお、令和3年（2021年）3月には平均殻長が5cmを超え、身入りの良いマガキが育ったが、出荷サイズまでには成長しなかった（図4）。

【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）



図1 水俣市地先の採苗基質設置箇所



干出あり、稚貝付着あり

① 湯堂港護岸、④丸島新港護岸

干出なし、稚貝付着なし

②袋湾口カキ筏、③湾奥カキ筏、⑤湯の児地先作業筏

図2 地先毎の稚貝着底状況

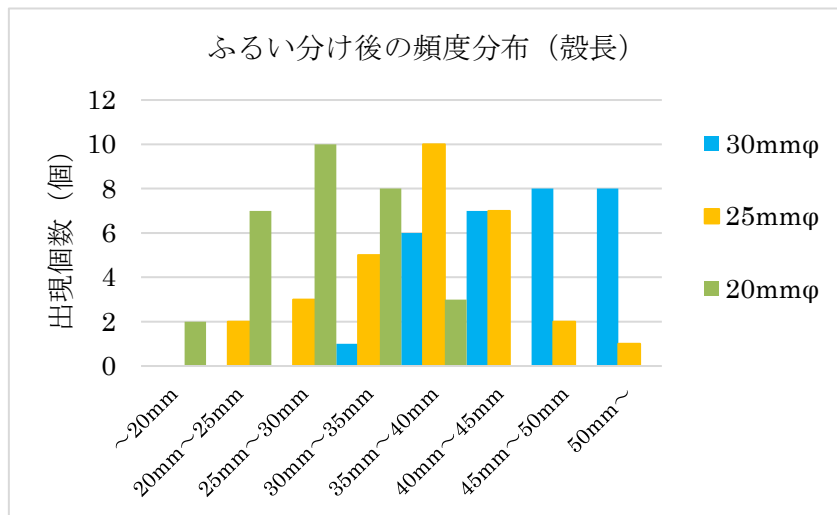


図3 3種類の篩でふるった後の目合い毎のマガキ出現個数

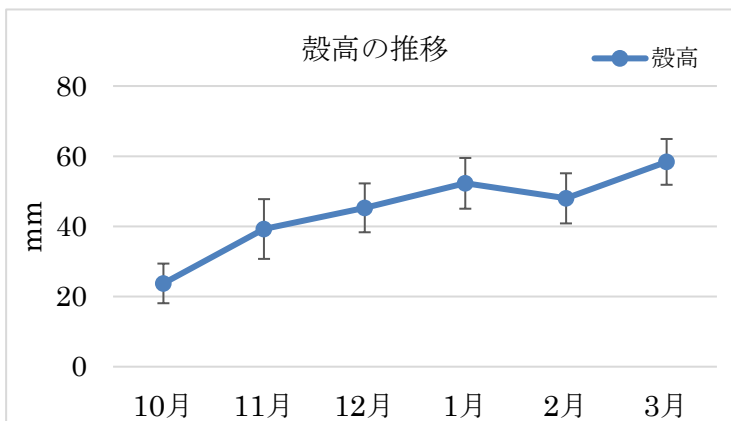


図4 平均殻高の推移と3月調査時の身入りの状況